

平成 28 年度 学校法人日章学園 宮崎医療福祉専門学校 学校関係者評価結果

平成 29 年 5 月 10 日実施

3段階評価 A：達成 B：一定の成果あり C：不十分

右の評価は A=3 B=2 C=1 で点数化

自己評価(総合)	B (2.3)	学校関係者評価(総合)	A (2.5)
----------	----------------	-------------	----------------

教育の方針		確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。		
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
1. 建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	①毎月、学園及び学校・学科の取組みについて全職員で月間評価を行い、職員会議で一覧表にして進捗や達成状況、課題等を確認した。目標を必ず実現する取組みを強く実行した。②学生の実態を把握するために、アンケートに基づいた研究活動や事例研究を行うなど、教員の資質向上に努めた。③医療職に求められる資質である社会的スキルの向上をねらい、校内での日常的なコミュニケーション指導に加え、清掃やボランティア等で教職員と学生の協働の取組みを強化した。	A	医療職に求められる資質の向上については、学生の社会的スキルアップに学校がきめ細やかな指導・支援に努めていることが、1年間の取組みからよく理解できた。学校に限らず、医療現場においてもコミュニケーションが苦手であったり、報告・相談がうまくできない若者も増えている。今後も家庭や実習先と連携して、学生の資質向上に取り組んでほしい。
2. 国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	A	①国家試験や各種検定取得を想定して、各学年における到達目標をより明確にし、未到達者には補習実施や課題を課すなど学生個々の理解の浸透を図った。②国試対策では夜間学習や休日学習に加えて、教員を割り振って学生に個別学習を行うなど徹底強化を図った。国家試験においては看護が合格率100%を達成、理学療法も全国平均を上回る 91.7%と過去最高の実績を残し、今後の礎を築いた。③医療秘書学科では、卒業生一人平均15を超える専門資格を取得し、県内最多の資格取得校としての伝統を継承した。	A	教員の熱心で手厚い学習指導や学生同士の学びあいなど、長年培ってきた独自のノウハウや工夫により、成果が現れている。教師の熱い思いが学生たちの学習意欲につながって、最終的に数値が向上しているのは評価できる。医療秘書の資格取得に関しては、数の多さも大事だが、学生の意見要望を取り入れながら、より高位の資格獲得を目指すなど質的向上も図ってほしい。
3. 全職員の協力による学生募集の推進	B	①県内における相次ぐ医療系学校新設に危機感をもって、前期は全学科の職員による高校訪問や各種ガイダンスに出向いて、自分達で募集を展開する意識を高めた。②オープンキャンパスも毎回各学科が輪番で立案運営を行うなど当事者意識を高めて、より主体的に開催できた。③推薦入試においては、2年連続前年度受験数を上回った。④競合校の相次ぐ開校もあり、一般入試の受験数や合格者の手続き数が減少傾向にあるので、対策が必要である。	B	学科が競合する学校が県内に新設されている中で、本校で学ぶメリットやアピールポイントについて、改めて特色を明確にする必要がある。また西都市以外では本校のことを知らない方も多いと思われるので、周知法の検討も必要。医療秘書学科の募集のあり方や一般入試の対策など、いっそうの工夫と努力に期待したい。
4. 退学生の防止	B	①毎朝の学科ミーティングで気になる学生について情報の共有を行い、職員全体で個々の学生を注視する態勢を強化した。②試験や実習での躓きが退学に繋がる実態を重視し、試験前後及び実習前指導に注力し、個別面談もできるだけ密に行った。③退学数は前年度を下回ったが、目標数値を達成できなかった。実習や定期試験のさらに細やかな配慮が必要である。	B	退学防止策の一つとして、学生へのストレス評価(検査)を行い、その結果から見られる特徴を指標に学生指導に役立てる方法もある。また、早い段階で先輩や卒業生から直接話しを聞く機会を設けると、学生が目標を持ちやすくなる。退学をゼロに近づける対策を強化してほしい。
5. 個を生かす進路指導の推進	B	①入学早々の病院見学実習、随時の卒業生講話や技術指導等で、学年に応じた具体的進路イメージの構築に努めた。②年度始めと学期末に個別面談を実施し、進路希望確認を行うと共に学科会で情報を共有し、科全体での進路指導を図った。③就職希望者については、内定100%を達成した。	A	就職内定率100%を達成していることは素晴らしい。県内就職率も高い。県内、特に地元に向けさせる進路指導の工夫をさらに期待したい。個別面談は今後も継続してほしいが、個を生かすためにも個を把握する手段をさらに検討してほしい。
6. 地域連携強化の推進	B	①西都市定住促進の集いの開催を試みたが、諸事情で本年は開催できなかった。次年度開催に向け市側と協議を続けている。②医務サポートやボランティアをはじめ、地域との交流やサポート活動を数多く実施した。次は全学生・教職員参加を目指したい。	B	西都市と学校の発展のためにも、市と学校側の協議を深めて、教育充実と定住促進の集いの開催を進めてもらいたい。ボランティアはとてもよい体験となるので、できる限り全学生が参加できるとよい。そのためにも、職員が率先して範を示すことが大事であろう。
7. 経費節減と校納金完納の推進	A	①年度予算に従い、事務局が各部署と連携し適宜・適切な執行に努め、すべての費目において良好な収支を行うことができた。②毎月職員会議での光熱水費の使用状況提示、毎朝礼での校舎確認状況発表で教職員、学生の省力化意識を高めている。③事務局と教職員がよく協調し年度の校納金は完納であった。	A	職員・学生を含めた学校全体の経費削減の意識の高揚がなされており、資料で示された数値から、成果として現れていることがわかった。今後も継続した努力を期待する。

※「外部評価」は7名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評価です。「学校関係者評価(総合)」は7名の「外部評価」7項目の平均を四捨五入した結果の評価です。